

あかねの里(認知症対応型共同生活介護事業所)

1. 評価結果概要表

作成日 20 年 9 月 9 日

【評価実施概要】

事業所番号	1871700272
法人名	医療法人 社団茜会
事業所名	あかねの里
所在地	坂井市丸岡町羽崎31-11-3 (電話) 0776-67-6581

評価機関名	社会福祉法人 福井県社会福祉協議会		
所在地	福井市光陽2丁目3-22		
訪問調査日	平成20年7月16日	評価確定日	平成20年9月9日

【情報提供票より】 (20 年 7 月 5 日 事業所記入)

(1)組織概要

開設年月日	昭和・平成 13 年 5 月 1 日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	15 人	常勤 11 人、非常勤 4 人、常勤換算 13.3 人	

(2)建物概要

建物構造	鉄骨 造り		
	4 階建ての	2 ~	3 階部分

(3)利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	48,000 円	その他の経費(月額)	15,000 円	
敷金	有 (円)		無	
保証金の有無 (入居一時金含む)	有 (円)	有りの場合 償却の有無	有 / 無	
食材料費	朝食	200 円	昼食	470 円
	夕食	350 円	おやつ	0 円
	または1日当たり			円

(4)利用者の概要 (7 月 5 日 現在)

利用者数	18 名	男性 3 名	女性 15 名
要介護1	2	要介護2	5
要介護3	8	要介護4	1
要介護5	2	要支援2	0
年齢	平均 85.9 歳	最低 76 歳	最高 94 歳

(5)協力医療機関

協力医療機関名	藤田神経内科病院
---------	----------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

九頭竜川が福井市と坂井市を分ける市境近くに当ホームはあり、周囲には住宅街と田園が広がっている。ホームには法人母体の医療機関や老人保健施設が隣接し、法人内での医療連携体制がしっかりとできており、入居者の急変時の迅速な対応やホームでの看取り等も家族の意思を尊重しながら実践されている。ホームは3階建てで、2階・3階に1ユニットずつが配置され、1階はデイケアとなっている。ホーム内の居間には和室のスペースが広く取られ、また、ベランダも広く、入居者は自由に外の田園や山なみの景色を楽しんだり、プランターの草花の世話をするなど、入居者が好きな場所で自由に過ごすことができるように工夫がなされている。ゆったりした空間と利用者本位の時間を大切にケアを行い、「共にゆっくり過ごす」の理念を実践している。ケアプランの内容についても、単にホーム内でのケアにとどまらず、1階のデイケアの行事に参加したり、入居者個人の特性や希望を踏まえ、外出や外出に出かけたりして日々の生活にメリハリをつけるなど入居者の意向を大事にした多様な取り組みがみられる。地域とのつながりにおいては、これまでの自治会の行事への参加や毎月の保育園との交流に加え、今年度から毎月1回、近くの寺に出かけてお勤めをしたり、法話を聞くなどの積極的な取り組みを行っている。

【重点項目への取組状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4)
	前回評価では、地域との更なる関係づくりや市職員の運営推進会議への参加等が課題としてあげられたが、地域との関係づくりについては、日頃の地域住民との関わりに加えて、今年度から毎月入居者と共に地元の寺に法話を聞きに行くなどの取り組みを始めている。また、市職員の運営推進会議への参加は実現していないが、会議報告書を送付して理解を求めており、今後とも、法令等の変更を確認しながら市との連携を図っていく予定である。
重点項目	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	職員各自が自己評価に取り組み、それを職員全体で共有して、改善等に向けた意見交換をしている。日々のケアの視点を確認し合うことができ、今後のよりよいケアの実践に向けた研修の一つとなっている。外部評価の意義についても、正しく理解しており、評価をサービスの質の向上に活かしている。
重点項目	運営推進会議のおもな討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4、5、6)
	運営推進会議に複数の家族代表者や地域代表として民生委員が参加しており、管理者から運営内容の報告や入居者家族からの意見・苦情等について活発に質疑が交わされている。実際に前回評価の改善課題であった地域との関係づくりについて、会議での意見を基に今年度から定期的に地元の寺への訪問を実施するなどホームでの活動に活かされている。会議報告書は家族が自由に閲覧できるようになっており、また、年2回家族会との合同会議を開催して、個々の家族の意見等を直接運営推進会議に諮る取り組みもなされている。
重点項目	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7、8)
	ホーム内に苦情対応方法と相談窓口の掲示があり、いつでも受付可能となっている。苦情案件については、記録簿が整備され、事実関係の調査内容、改善対策、入居者および家族への説明等が記載されている。家族会と運営推進委員との合同会議を年2回開催し、家族の意見等を直接運営推進会議に諮っており、ホームの運営に反映する工夫がみられる。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	買物や近くの神社への散歩等で近所の人と挨拶を交わしたり、近隣の保育園との交流、公民館の行事への参加等、地域住民との関わりを大切にしている。今年度から、新たな取り組みとして地元の寺に入居者と一緒訪問し、法話を聞くなど地域とのつながりを深めるとともに入居者の生活の張り目と目標となるよう取り組んでいる。今後は、地域住民が気軽にホームに訪れることができるよう新たな取り組みを検討していくこととしている。

2. 評価結果（詳細）

■は、重点項目。

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
		理念に基づく運営 1 理念の共有			
	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「その人の個性を尊重する」、「いっしょに、ゆっくり過ごす」、「家庭的な雰囲気の中でその人の人生を全うする」という理念に加えて、さらに地域社会との関わりを持って過ごすことの重要性をホームの職員一同が認識し、ケアに取り組んでいる。		
	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	管理者と職員共にケアカンファレンスや週1回行うミーティング時に日々のケアが理念に沿ったものになっているか振り返っている。また、介護計画を話し合う中でも、その目標や内容が理念に合ったものであるか検討している。		
		2 地域との支えあい			
■	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	町内会に加入しており、公民館や幼稚園への行事に入居者が参加したり、園児が定期的に来所したりしている。また、納涼祭やあかね祭には町内の人達の参加もある。買物や近くの神社への散歩の時に地域の人と挨拶を交わしたり、また、新たな取り組みとして地元の寺に月1回訪問して住職の法話を聞くなどの交流を行っている。		
		3 理念を実践するための制度の理解と活用			
■	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	全職員が自己評価を行い、その結果を管理者や職員と検討している。外部評価の意義について管理者や職員は理解しており、評価を活かす姿勢が確認できた。前回評価で課題としてあがった地域との関係づくりにおいても地元の寺に定期的に法話を聞きに行くなど新たな取り組みを実践し、入居者の生活に張り目標をもたせている。		
■	8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議ではホームからの現状報告や入居者のケアの課題等の提起に対して委員から活発な意見が出されており、その意見を管理職と職員が確認して、ホームの運営や入居者へのケア実践に取り入れ、活用している。		
■	9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者や運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	介護保険広域連合から運営推進会議への出席はあるが、市関係者の出席は実現していない。ホームからは会議録を送付して運営内容を報告しているが、今後は法令等の変更を確認しながら市町村との連携を図っていく予定である。		
		4 理念を実践するための体制			
■	14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	入居者の健康状態等普段の様子や職員の異動等については、2か月ごとの「あかねの里便り」で知らせたり、ケアプランの説明時や家族の訪問時に記録を読んでもらうなどの方法で報告している。また、疾病等で家族に知らせたい時には電話で連絡を行っている。		
■	15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族の代表者が運営推進会議の委員として参加している。また、家族会を設けて、年1回の会議、さらに年2回運営推進会議と合同の会議を開くなど家族等の意見、苦情等を述べる機会を設けている。また、苦情についてはホーム内に苦情対応方法と相談窓口の掲示があり、いつでも受付可能となっている。		
■	18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の異動は欠員補充に加えて、職員の資質向上を図るため、法人内の他の業務経験も考慮して行っている。職員の異動があった場合にも、新任職員は現任職員とペアを組んで、入居者に不安を与えないように配慮がなされている。		

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期 待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
		5 人材の育成と支援			
10	19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	新人職員については、法人のプログラムに沿って研修を実施するほか、職員の段階や目標に応じて、認知症介護実務者研修等の外部研修への参加も配慮している。また、毎月開催される院内勉強会等の内部研修にも職員が参加するようにしている。		
11	20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	県内のグループホーム連絡協議会の勉強会に参加して、他事業所の取り組みを学ぶとともに、当ホームの取り組みを発表したり、近隣のグループホームとの相互訪問を行い、業務について意見交換を行うなどサービスの質の向上に取り組んでいる。		
		安心と信頼に向けた関係づくりと支援	1 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応		
12	26	馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	見学や体験入所、家族の宿泊等入居者がホームに徐々に慣れるための取り組みを行っている。また、職員も担当制となっており、できるだけ入居者の情報を把握して入居者の安心が得られる対応を心がけている。		
		2 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援			
13	27	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	入居者の育った土地の風習や行事等を話題としたり、郷土料理の作り方を教えてもらったり、外出やレクリエーションを共に楽しむなど、何気ない日常の会話を大切にしている。食事づくりやプランターの花壇づくり、畑の野菜づくりなど入居者からやり方を職員が教わりながら、一緒に取り組んでいる。		
		その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	1 一人ひとりの把握		
14	33	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居者本人や家族から、自宅での暮らしぶりや入居前の生活歴を聞いたり、日常会話の中から本人の思いや希望を汲み取るようにしている。また、意思疎通が困難な入居者に対しては、毎日のケアを通して様子を観察し、行動や表情等から汲み取るように努めている。		
		2 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し			
15	36	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	認知症高齢者ケアマネジメントセンター方式を導入し、事前に本人と家族の意見を聞き、カンファレンスを行っている。また、センター方式で生活歴等の情報を集め、入居者本位となるよう介護計画に反映している。職員同士で意見を出し合い、必要に応じて他職種や家族にも参加してもらいながら介護計画を作成している。		
16	37	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	基本的に1か月ごとに担当者が日常のケアの状況を踏まえて見直しを行い、ケアマネジャーは担当者や家族の意見を聞きながら、3か月ごとに介護計画の見直しを行っている。また、必要に応じて、その都度計画の見直しが行われている。		
		3 多機能性を活かした柔軟な支援			
17	39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	法人母体の医療機関や老人保健施設が隣接しており、法人内での医療連携体制や看護サービスの受け入れ、併設のデイケアでの音楽療法に参加するなど柔軟な支援を行っている。		

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期 待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医の受診は家族の意見に沿っているが、連携している医療機関以外での診療を希望する場合には、基本的に家族が受診に同行することとなっている。診察内容については家族に確認を行うほか、必要に応じて受診した医療機関との情報交換もなされている。		
19	47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	終末期の看取りについては、入居時に「看取りの指針」を提示して説明するほか、必要に応じてその都度、家族の意思を確認している。実際に看取りを行ったケースもあり、家族、医師、職員でよく話し合い、家族の意向と協力、ホームができることを話し合っ、方針を確認しながら進めている。		
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1 その人らしい暮らしの支援 (1)一人ひとりの尊重					
20	50	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	プライバシーの保護については法人全体でマニュアルを作り、学習している。トイレ介助の声かけも適切で、居室に入る時もノックと声かけで了解を得て入室している。日常のケアにおいては、職員個々が言葉遣いや声のトーンに気をつけて対応している。		
21	52	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	余暇活動等では無理強いをせず、本人の希望や他の選択肢を提案するようにしている。意思疎通の難しい入居者に対しては、過去の生活の状況から推測したり、行動や表情等を見たりして、その日を楽しむ支援を行っている。		
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	野菜を切ったり、盛り付けや片づけまで、入居者に応じて取り組んでもらっている。週2回はお好み献立として、献立を決めたり、買物も一緒に行っている。誕生日には本人の好きなものを用意したり、家庭的な茶碗や入居者専用の湯飲みや箸の使用で食事が楽しめる工夫がなされている。		
23	57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入居者は基本的に週3回、午後の時間帯に入浴している。希望があれば毎日の入浴もできるようになっており、入浴にかかる時間も一人ひとりに合わせている。		できる限り一人ひとりの入浴希望に合わせるように取り組んでいるが、入浴時間が午後2時～5時に限られているため、入居者の状況によって入浴したい時に入れる支援にさらに取り組まれることが期待される。
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	入居者の希望やこれまでの役割を考慮して配膳や洗濯等をお願いしている。施設内での書道や生け花、陶芸、音楽療法、月ごとのレクリエーション等本人の好きなことができるように支援している。また、ベランダにプランターを置き、草花を植えて、その手入れ等も気晴らしとして取り入れている。		
25	61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	近所のスーパーへの買物や散歩等で日常的に外出している。また、入居者の希望を汲んで個別に寺や図書館、時には自宅に職員と一緒に行くようなことにも対応している。近くにある畑の手入れに出かけた時、車いすの入居者でも神社への散歩に出かけるなど外出の支援がなされている。		
(4)安心と安全を支える支援					
26	66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中は施錠せず、職員が玄関から入居者が出ることに気をつけたり、同じ敷地内にある法人内の施設職員も一体となってホームの入居者が外に出た場合に気を配るなどの連携が取られている。今年に入って入居者の無断外出があり、安全対策として玄関にセンサーを設置している。		

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期 待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
27	71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	法人全体での避難訓練を消防署の指導のもと、年数回行っている。ホームでも毎月、災害時の対応として避難の手順を職員、入居者で確認している。火事の際の通報手順がマニュアルとしてスタッフルームに掲示されており、地震時の対応として食糧や水の備蓄を法人で行っている。		災害時に地域の応援も得られるよう、法人全体での避難訓練に地域の人たちの協力も積極的に呼び掛けるなど今後の働きかけが望まれる。
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面への支援					
28	77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	法人内の管理栄養士が立てた献立を基本としており、栄養面での管理がなされている。食事摂取量の確認も随時行い、水分確保についても食事時、おやつ時、その他休憩時等にお茶の時間を多くとって、水分摂取の適量を確保している。		
2 その人らしい暮らしを支える生活環境づくり (1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	居心地のよい共有空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	食堂や居間、トイレ、浴室等の共有空間は十分なスペースが確保され、採光も適切である。居間には畳の間があり、ベランダも広く、屋内外でゆったりとくつろげるように工夫されている。トイレは各個室に近く、気軽に使用できる。季節の花や置物を飾るなど季節感や生活感も感じられる。		
30	83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ベッド、箆笥はホームで用意しているが、それ以外は持込みが自由である。入居者個々に馴染みの家具を持ち込んだり、畳を敷いたりして思い思いの空間づくりがなされている。また、写真や小物で部屋を飾ったり、食器類も使い慣れた物を持ってきてもらい、居心地よく過ごせるように工夫がなされている。		

あかねの里(2階)

自己評価票

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	<p>地域密着型サービスとしての理念</p> <p>地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている</p>	<p>利用者の個性を尊重し、地域社会とのかかわりを持って過すことの必要性を認識し、理念として挙げている。</p>	
2	<p>理念の共有と日々の取り組み</p> <p>管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる</p>	<p>理念を掲示し、週1回のミーティング時に理念に基づいた話し合いを行い、周知、実施するよう指導している。</p>	
3	<p>家族や地域への理念の浸透</p> <p>事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる</p>	<p>家族や地域住民との交流を通して理解が進んでいる。</p>	
2. 地域との支えあい			
4	<p>隣近所とのつきあい</p> <p>管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている</p>	<p>入りやすい雰囲気作りや、散歩時の声かけなど工夫している。</p>	<p>気軽に立ち寄ってもらえるようホームの行事等を積極的にアピールする。</p>
5	<p>地域とのつきあい</p> <p>事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている</p>	<p>積極的に参加交流を行なっている。</p>	

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6 事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	実施していない。		話し合いをする。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用			
7 評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価を全員で行なっているので、課題が、明らかになり、外部評価で提案された内容については、改善するよう努めた。運営推進会議や家族会には報告した。		法人内の3ヶ月目標に取り入れていく。
8 運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、その意見をサービス向上に活かしている	取り組み報告と問題点の検討を行なっている。良い意見を頂いており、即実行している。		
9 市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	運営推進会議の出席はないが、議事録を送り、内容を知ってもらう。		法令などの変更を確認しながら、市町村との連携をはかっていく。
10 権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	学ぶ機会を持っているが、必要度がないので活用していない。		非常勤職員の理解を進めていく。
11 虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	法人全体で、インシデント委員会を設置しており、虐待行為防止のチェックに努めている。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	<p>契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>現在の生活についての問題点を確認し、契約書、重要事項説明書を基に理解を図っている。</p>	
13	<p>運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>直接の指摘により、意見を知ることが出来る。即、改善案を出し、法人に報告し、改善を実行している。</p>	
14	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>ケアプランの説明、2ヶ月に1回のおたより、面会時に日中記録を読んでもらうなどしている。</p>	
15	<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>法人内の苦情箱による投書や、直接の指摘により、法人や運営推進会議に報告する。即改善している。</p>	
16	<p>運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>週1回のミーティングや月1回の会議に困っていることや、提案などを聞き反映させている。</p>	
17	<p>柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>	<p>利用者の状況変化に伴い、職員間の話し合いで勤務調整をしている。</p>	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
18	<p>職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	配慮している。		
5.人材の育成と支援				
19	<p>職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	法人内で職員教育、院内勉強会などのプログラムがある。法人外では職員の段階や目標に応じて参加を勧めている。		
20	<p>同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	ネットワークの勉強会参加や、発表。又、近隣のホームとの交流をおこない質の向上に取り組んでいる。		
21	<p>職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる</p>	1対1で職員の話聞く時間を作っている。法人内の歓迎会、忘年会、納涼祭、互助会の小旅行等がある。		
22	<p>向上心を持って働き続けるための取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている</p>	個々の目標や自己評価により、向上心につなげている。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	<p>初期に築く本人との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>家族から本人の性格など聞き、その人に合った話をしやすい環境を作り会話する</p>	
24	<p>初期に築く家族との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>相談時には、申し込みにいたった経過を傾聴するようにしている。その後、入居までは体験入居などを通して心配事などないか聞くようにしている</p>	
25	<p>初期対応の見極めと支援</p> <p>相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている</p>	<p>入居申し込みや相談時、必要に応じて他施設の紹介を行う</p>	
26	<p>馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>	<p>見学や体験入居などで雰囲気慣れてもらい、職員も状態把握している</p>	
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援			
27	<p>本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている</p>	<p>風習や行事、郷土料理の作り方などを教えてもらう。 外出やレクリエーションなどは共に楽しむようにしている</p>	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
28	本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	施設での外出、行事への参加。 家族会での意見交換。		
29	本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	入居前の関係を把握し、自宅への外出や面会依頼を検討する。希望があれば、主介護者以外にもお便りを送付し近況を報告する		
30	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	友達との面会、なじみの場所への外出、外泊などの支援と、手紙や電話をかける援助行っている		
31	利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	入浴時、気の合う方は一緒に入っただきお互いの背中を流したり、散歩などの時に車椅子利用の方を押していただくなどしている。 気の合う入居者は階を問わず交流できるよう支援している。		
32	関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	必要とする家族には継続的にかかわりをしている。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント			
1.一人ひとりの把握			
33	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>入居前の生活歴や、日常会話などからも本人の思いを汲み取るようにしている。</p>	
34	<p>これまでの暮らしの把握</p> <p>一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている</p>	<p>センター方式で家族や生活歴など暮らしの情報を集めケアプランに活用している</p>	
35	<p>暮らしの現状の把握</p> <p>一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている</p>	<p>カルテに日中記録をなるべく多く書くようにして、勤務していない日でも状況が把握できるように努めている</p>	
2.本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し			
36	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>事前に本人と家族の意見を聞き、カンファレンスを行う。 必要に応じて他職種や家族にも参加をしてもらうようにしている。</p>	
37	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>3ヶ月に1回のカンファレンスと1ヶ月に1回のショートカンファレンスにより常に見直しを行い、必要に応じてプラン変更を行っている</p>	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	カルテの日中記録を多く書くようにし、申し送りやショートカンファレンスなどで情報の共有に努めている		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	ショートステイ、認知症専門デイサービスなど併設でも行っているが、認知症に対する柔軟な対応を目的として受け入れるようにしている		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	ボランティアによる習い事の継続や、幼保園との交流、公民館などでのカルチャー教室への参加など行っている		
41	他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	状態が良くなった方には、ケアハウス紹介や在宅復帰など紹介しケアマネや福祉用具貸与などサービス紹介、仲介など行っている		
42	地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	本人の必要性がないため行った事がない。運営推進会議の議事録は送付している		総合的かつ長期的なケアマネジメント等について相談していきたい。

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
43 かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居前からのかかりつけ医を優先し、必要に応じて受診している		
44 認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	併設病院のDrに診断、治療、その他必要に応じて病気や薬のことなど各種相談している		
45 看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	医療連携による定期的なNs訪問があり、健康管理や診察の予約など行っている		
46 早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	入院時は、直接もしくは電話で状態を随時確認し、各種問題について早期対応が出来るような場をもうけている		
47 重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	ホーム専用の事前指定書を作成し、Drとの話し合いの前から家族と話し合いを持つようにしている		
48 重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	ホームでの生活に関してDrに参加してもらいカンファレンスを行い、家族の希望と協力、ホームが出来ることの話し合いを行う		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
49 住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	新しい環境を想定し、退居前に対応を変えたり「退居時情報提供書」を作成し、退居先への情報提供を行っている		
・その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1) 一人ひとりの尊重			
50 プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	個人が言葉使いや声のトーンに気をつけて対応し、謝罪も行っている。		朝の申し送り時に言葉使いの意識付けを行う
51 利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	担当職員を付け個別に話を聞くなどして、なじみの関係を深く作れるようにしている。提案は複数出し選択出来るようにしている		自己決定があっても変化が生じることを念頭に置く
52 日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	無理強いせず、本人の希望や他の選択肢を提案するようにしている		何をして良いかわからない方が増えてきているため、選択肢のレパトリーを増やし本人の希望に添えるようにする
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53 身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	本人や家族に希望を聞き近くの美容室には送迎を行っている。パーマ、毛染めなども本人の希望と能力にあわせ支援している 化粧品なども入居前の使用が継続できるよう支援している		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
54 食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	野菜切り、盛り付け、片付けまで本人の能力や好みに応じて行っている。 週2回は、お好み献立として献立決定や買い物と一緒に行う。誕生日には本人の好きなものを出すようにしている		
55 本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	可能な限り、居室に置き自由に楽しめるようにしている。施設側で預かる場合も折に触れ本人に希望を聞き提供するようにしている		
56 気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	時間誘導を個別で行い、ケアパットやオムツなどもなるべく使用しない援助をしている		
57 入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	週3回を基本としているが、午後から毎日沸かしているため希望があればいつでも入れるようにしている。		
58 安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	体調やその日の活動量にあわせ昼寝や就寝の声掛けをしている		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援			
59 役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	施設内での書道、生花、陶芸や音楽療法への参加。月ごとのレクリエーション、家事作業や散歩など本人の好きなことが出来るよう支援している		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
60	<p>お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	本人の能力にあわせ自己管理や支払いへの援助を行っている		
61	<p>日常的な外出支援</p> <p>事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している</p>	1日に1度はグループホームの玄関から外に出るよう支援している		
62	<p>普段行けない場所への外出支援</p> <p>一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している</p>	ケアプランにより希望に沿った個別の外出を行っている		
63	<p>電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている</p>	可能な方には自由に電話を使用して貰っている。それ以外の方でも希望があれば取次ぎや代行で話をするなどしている		
64	<p>家族や馴染みの人の訪問支援</p> <p>家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している</p>	いつでも訪問してもらっている。来られた場合は居室以外にも居間など自由に使って貰っている。希望があれば、宿泊も可能		
(4)安心と安全を支える支援				
65	<p>身体拘束をしないケアの実践</p> <p>運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる</p>	身体拘束となる行為は行っていない。それ以外の行為であっても、本人を拘束する行為となっていないか話し合いを行っている。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
66 鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	9時から18時までは玄関の鍵をかけないケアを行っている。居室に関しては、危険があると考えられる入居者のみ話し合い後に窓の鍵のみかけるようにしている		
67 利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	玄関の出入り時、音声が流れるようにする。暖簾や障子など、自然な形で居室の様子が見えるようにしている。		
68 注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	財布、おやつ、はさみなどの刃物や針など本人の能力や希望に応じてなるべく本人に管理して貰えるよう対応している		
69 事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	法人全体での勉強会参加や会議の時などに事故防止を話し合っている。また転倒、誤薬など生じた時はレポート提出をし再発防止に取り組んでいる		
70 急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	法人全体での勉強会に参加している		すべての職員が対応できるよう、年4回を目標として訓練を行いたい
71 災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	法人全体で災害想定の方難訓練を年数回行っている。グループホームでも毎月災害時の対応について職員間で確認おこなっている		利用者参加型の訓練や対応が行えるよう企画する

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
72	リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている	身体などの変化があれば報告を行い、必要であればその対応について相談や希望を聞くようにしている		カンファレンス時に、今後考えられるリスクについても話し合い、家族に報告や思いを聞くようにする
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	併設外来N sの週2回の訪問や、異変があった場合はその都度連絡し指示を受けるなどしている。家族にもその都度連絡している。薬局からの医薬情報はすぐに見れるようにしてある。		
74	服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員が担当入居者については必ず、それ以外でも把握するようにしている。薬剤師にも注意点など配達時に確認するようにしている		
75	便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	朝食に胚芽米や味噌汁に寒天を入れる。おやつにバナナヨーグルトを出す。便秘のきつい方にはセンナ茶も提供している。入浴やトイレに座ったときなどに腹部マッサージを行っている		
76	口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食後に声掛け、見守り、介助などで口腔ケアを行っている。		
77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	老健の献立を基本としたメニューがあり偏りがないように努めている。水分は、お茶の時間を多く持ち補給が十分出来るようにしている		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
78	感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	法人全体での院内感染委員会があり取り決めや連絡事項を実行している		
79	食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	調理器具などについては毎日清掃と消毒を行い、食材料は生鮮品については前日または当日の、配達か購入を行っている		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	各ユニットごとの玄関だけでなく、1階エレベーター前にも看板を置き飾り付けを行い優しい雰囲気が出るようにしている		
81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	過剰に明るくなりすぎないようにしている。テレビも点けばなしにならないようにして音楽をかけた時静かな時間を作るようにしている。散歩時に手折った花を飾って季節感を出している		
82	共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	各所に椅子や座れる段差を設け、好きな場所で休めるようにしている。		畳の共同空間があるが介護度が高くなるにつれて利用度が低くなっているため今後、どのように利用して貰うか検討して行く

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好み のものを活かして、本人が居心地よく過 せるような工夫をしている	本人が使っていた家具や布団の持込みをお願い している。食器に関しても茶碗など本人の使い慣 れたものを持ってきて貰い使用するよう にしている		
84	換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のだよみがないよ う換気に努め、温度調節は、外気温と大 きな差がないよう配慮し、利用者の状 況に応じてこまめに行っている	定時で換気(10時・15時)を行い、居室 により温度計を置くなどして管理して いる		
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活 かして、安全かつできるだけ自立した生 活が送れるように工夫している	各所に手すりを設け、床材はクッション 製のものをを使い転倒時の衝撃予防		2箇所のトイレに手すりを追加した。
86	わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混 乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるよ うに工夫している	能力にあわせ居室やトイレに目印や張 り紙をしている。本人のわかる言葉で の話しかけや対応を心がけている		
87	建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が 楽しんだり、活動できるように活かし ている	昼食をベランダで食べたり、プラン ターや畑の菜園、花壇を作り水遣り や収穫をしている。ベランダは散歩 も自由に行っている		

( 部分は外部評価との共通評価項目です)

. サービスの成果に関する項目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を 印で囲むこと)
項 目		
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	ほぼ全ての利用者の 利用者の2/3くらいの 利用者の1/3くらいの ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	毎日ある 数日に1回程度ある たまにある ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	ほぼ全ての家族と 家族の2/3くらいと 家族の1/3くらいと ほとんどできていない
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	ほぼ毎日のように 数日に1回程度 たまに ほとんどない

項 目		取 り 組 み の 成 果 (該 当 する 箇 所 を 印 で 囲 む こ と)
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	大いに増えている 少しずつ増えている あまり増えていない 全くいない
98	職員は、生き活きと働けている	ほぼ全ての職員が 職員の2/3くらいが 職員の1/3くらいが ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての家族等が 家族等の2/3くらいが 家族等の1/3くらいが ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

あかねの里(3階)

自己評価票

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	<p>地域密着型サービスとしての理念</p> <p>地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている</p>	<p>利用者の個性を尊重し、地域社会とのかかわりを持って過すことの必要性を認識し、理念として挙げている。</p>	
2	<p>理念の共有と日々の取り組み</p> <p>管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる</p>	<p>理念を掲示し、週1回のミーティング時に理念に基づいた話し合いを行い、周知、実施するよう指導している。</p>	
3	<p>家族や地域への理念の浸透</p> <p>事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる</p>	<p>家族や地域住民との交流を通して理解が進んでいる。</p>	
2. 地域との支えあい			
4	<p>隣近所とのつきあい</p> <p>管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている</p>	<p>入りやすい雰囲気作りや、散歩時の声かけなど工夫している。</p>	<p>気軽に立ち寄ってもらえるようホームの行事等を積極的にアピールする。</p>
5	<p>地域とのつきあい</p> <p>事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている</p>	<p>積極的に参加交流を行なっている。</p>	

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6 事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	実施していない。		話し合いをする。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用			
7 評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価を全員で行なっているので、課題が、明らかになり、外部評価で提案された内容については、改善するよう努めた。運営推進会議や家族会には報告した。		法人内の3ヶ月目標に取り入れていく。
8 運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこの意見をサービス向上に活かしている	取り組み報告と問題点の検討を行なっている。良い意見を頂いており、即実行している。		
9 市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	運営推進会議の出席はないが、議事録を送り、内容を知ってもらう。		法令などの変更を確認しながら、市町村との連携をはかっていく。
10 権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	学ぶ機会を持っているが、必要度がないので活用していない。		非常勤職員の理解を進めていく。
11 虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	法人全体で、インシデント委員会を設置しており、虐待行為防止のチェックに努めている。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	<p>契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>		
13	<p>運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>		
14	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている</p>		
15	<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>		
16	<p>運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>		
17	<p>柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
18 職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	配慮している。		
5.人材の育成と支援			
19 職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内で職員教育、院内勉強会などのプログラムがある。法人外では職員の段階や目標に応じて参加を勧めている。		
20 同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	ネットワークの勉強会参加や、発表。又、近隣のホームとの交流をおこない質の向上に取り組んでいる。		
21 職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	1対1で職員の話聞く時間を作っている。法人内の歓迎会、忘年会、納涼祭、互助会の小旅行等がある。		
22 向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	個々の目標や自己評価により、向上心につなげている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	<p>初期に築く本人との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>日常生活の中で本人に話を聞いたり、カンファレンス前に家族から性格などの情報を聞く。その人に合った話をしやすい環境を作り、会話する。</p>	
24	<p>初期に築く家族との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>相談時には、申し込みにいたった経過を傾聴するようにしている。その後、入居までは体験入居などを通して心配事などないか聞くようにしている。</p>	
25	<p>初期対応の見極めと支援</p> <p>相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている</p>	<p>入居申し込みや相談時、必要に応じて他施設の紹介を行う</p>	
26	<p>馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>	<p>見学や体験入居などで雰囲気慣れてもらい、職員も状態把握している</p>	
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援			
27	<p>本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている</p>	<p>日常の料理、掃除などを一緒に話し合いながら行う。 風習や行事、郷土料理の作り方を教えてもらう。 外出やレクリエーションなどは共に楽しむようにしている</p>	<p>利用者が得意としている料理、掃除などの分野を個別に見出し、一緒に過ごす機会を増やす。</p>

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
28	本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	施設での外出、行事への参加。 家族会での意見交換。		
29	本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	入居前の関係を把握し、自宅への外出や面会依頼を検討する。希望があれば、主介護者以外にもお便りを送付し、近況を報告する。		面会時には利用者情報を口頭だけでなく、カルテを見て頂き、日々の情報を提供する。
30	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	友達との面会、なじみの場所への外出、外泊などの支援と、手紙や電話をかける援助行っている。		利用者一人一人が希望した場所に外出する。
31	利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	気の合う入居者は階を問わず交流できるよう支援している。散歩は複数で行き、2階3階合同昼食会や外食などを行っている。		
32	関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	移動した先の施設への訪問や手紙を書く		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
・その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント			
1.一人ひとりの把握			
33	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>入居前の生活歴や、日常会話などからも本人の思いを汲み取るようにしている。</p>	
34	<p>これまでの暮らしの把握</p> <p>一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている</p>	<p>センター方式で家族や生活歴など暮らしの情報を集め、ケアプランに活用している。家族にも作成協力して貰う。</p>	
35	<p>暮らしの現状の把握</p> <p>一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている</p>	<p>カルテに日中記録をなるべく多く書くようにして、勤務していない日でも状況が把握できるように努めている。</p>	
2.本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し			
36	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>事前に本人と家族の意見を聞き、カンファレンスを行う。 必要に応じて他職種や家族にも参加をしてもらうようにしている。</p>	
37	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>3ヶ月に1回のカンファレンスと1ヶ月に1回のショートカンファレンスにより常に見直しを行い、必要に応じてプラン変更を行っている。</p>	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
38	個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	カルテの日中記録を多く書くようにし、申し送りやショートカンファレンスなどで情報の共有に努めている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	ショートステイ、認知症専門デイサービスなど、併設でも行っているが、認知症に対する柔軟な対応を目的として受け入れるようにしている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	ボランティアによる習い事の継続や、幼保園との交流、公民館などでのカルチャー教室への参加など行っている。		近辺のお寺参り、奉仕活動を行う。
41	他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	状態が良くなった方には、ケアハウス紹介や在宅復帰など紹介し、ケアマネや福祉用具貸与などのサービス紹介、仲介などを行っている。		
42	地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	本人の必要性がないため、行った事がない。運営推進会議の議事録は送付している。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
43 かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居前からのかかりつけ医を優先し、必要に応じて受診している。		
44 認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	併設病院のDrに診断、治療、その他必要に応じて病気や薬のことなど各種相談している。		
45 看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	医療連携による定期的なNs訪問があり、健康管理や診察の予約など行っている。		
46 早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	入院時は、直接もしくは電話で状態を随時確認し、各種問題について早期対応が出来るような場をもうけている。		
47 重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	ホーム専用の事前指定書を作成し、Drとの話し合いの前から家族と話し合いを持つようにしている		
48 重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	ホームでの生活に関してDrに参加してもらい、カンファレンスを行い、家族の希望と協力の、ホームが出来ることの話し合いを行う。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
49 住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	新しい環境を想定し、退居前に対応を変えたり「退居時情報提供書」を作成し、退居先への情報提供を行っている。		
<p>・その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</p> <p>1. その人らしい暮らしの支援</p> <p>(1) 一人ひとりの尊重</p>			
50 プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない			朝の申し送り時に言葉使いの意識付けを行う。
51 利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	担当職員を付け個別に話を聞くなどして、なじみの関係を深く作れるようにしている。提案は複数出し、選択出来るようにしている。		自己決定があっても変化が生じることを念頭に置く。
52 日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	無理強いせず、本人の希望や他の選択肢を提案するようにしている。		何をして良いかわからない方が増えてきているため、選択肢のレパトリーを増やし本人の希望に添えるようにする。
<p>(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</p>			
53 身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	本人や家族に希望を聞き、近く美容室には送迎を行っている。パーマ、毛染めなども本人の希望と能力にあわせ支援している。化粧品の使用、着替えの選択が継続できるよう支援している。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
54 食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	野菜切り、盛り付け、片付けまで本人の能力や好みに応じて行っている。 週2回は、お好み献立として献立決定や買い物と一緒に行う。誕生日には本人の好きなものを出すようにしている。		
55 本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	可能な限り、居室に置き自由に楽しめるようにしている。施設側で預かる場合も折に触れ本人に希望を聞き提供するようにしている。		
56 気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	時間誘導を個別で行い、ケアパットやオムツなどもなるべく使用しない援助をしている。		
57 入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めず、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	週3回を基本としているが、午後から毎日沸かしているため希望があればいつでも入れるようにしている。		
58 安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	体調やその日の活動量にあわせ、昼寝や就寝の声かけをしている。夜間においても、希望に応じ、居室電気を点灯する。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援			
59 役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	施設内での書道、生花、陶芸や音楽療法への参加。月ごとのレクリエーション、家事作業や散歩など本人の好きなことが出来るよう支援している。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
60	<p>お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	本人の能力にあわせ、自己管理や支払いへの援助を行っている。		お金の所持、使用できるよう、紛失防止の為、職員が定期チェックを行う。
61	<p>日常的な外出支援</p> <p>事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している</p>	散歩、外出、外食、買い物に出る機会を多く持つようにしている。		
62	<p>普段行けない場所への外出支援</p> <p>一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している</p>	ケアプランにより希望に沿った個別の外出を行っている。近辺のお寺訪問、幼保園交流を行っている。		利用者一人一人が希望した場所に外出する。
63	<p>電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている</p>	可能な方には自由に電話を使用して貰っている。それ以外の方でも希望があれば取次ぎや代行で話をするなどしている。		
64	<p>家族や馴染みの人の訪問支援</p> <p>家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している</p>	いつでも訪問してもらっている。来られた場合は居室以外にも居間など自由に使って貰っている。希望があれば、宿泊も可能。		
(4)安心と安全を支える支援				
65	<p>身体拘束をしないケアの実践</p> <p>運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる</p>	身体拘束となる行為は行っていない。それ以外の行為であっても、本人を拘束する行為となっていないか話し合いを行っている。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
66 鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	9時から18時までは玄関の鍵をかけないケアを行っている。居室に関しては、危険があると考えられる入居者のみ話し合い後に窓の鍵のみかけるようにしている。		
67 利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	玄関の出入り時、音声が流れるようにする。暖簾や障子など、自然な形で居室の様子が見えるようにしている。		
68 注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	財布、おやつ、はさみなどの刃物や針など本人の能力や希望に応じてなるべく本人に管理して貰えるよう対応している。		
69 事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	法人全体での勉強会参加や会議の時などに事故防止を話し合っている。また転倒、誤薬など生じた時はレポート提出をし、再発防止に取り組んでいる。		
70 急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	法人全体での勉強会に参加している。		すべての職員が対応できるよう、年4回を目標として訓練を行いたい。
71 災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	法人全体で災害想定の方難訓練を年数回行っている。グループホームでも毎月災害時の対応について職員間で確認おこなっている。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
72	<p>リスク対応に関する家族等との話し合い</p> <p>一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている</p>		<p>カンファレンス時に、今後考えられるリスクについても話し合い、家族に報告や思いを聞くようにする。</p>
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援			
73	<p>体調変化の早期発見と対応</p> <p>一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている</p>		<p>併設外来N sの週2回の訪問や、異変があった場合はその都度連絡し指示を受けるなどしている。家族にもその都度連絡している。薬局からの医薬情報はすぐに見れるようにしてある。</p>
74	<p>服薬支援</p> <p>職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている</p>		<p>職員が担当入居者については必ず、それ以外でも把握するようにしている。薬剤師にも注意点など配達時に確認するようにしている。</p>
75	<p>便秘の予防と対応</p> <p>職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる</p>		<p>朝食に胚芽米や味噌汁に寒天を入れる。おやつにバナナヨーグルトを出す。便秘のきつい方にはセンナ茶も提供している。入浴やトイレで腹部マッサージを行っている。食事前に体操を行っている。</p>
76	<p>口腔内の清潔保持</p> <p>口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている</p>		<p>毎食後に声掛け、見守り、介助などで口腔ケアを行っている。夜間は入れ歯を外し、ポリデント洗浄を行っている。</p>
77	<p>栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている</p>		<p>老健の献立を基本としたメニューがあり、偏りがないように努めている。食事形態の配慮、プリンや補助食の提供を行っている。水分はお茶の時間を多く持ち、お茶、清涼飲料など好みに応じ提供している。</p>

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
78	感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している（インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等）	法人全体での院内感染委員会があり、取り決めや連絡事項を実行している。手洗い方法、ハイター消毒のマニュアルがある。		
79	食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	調理器具などについては毎日清掃と消毒を行い、食材料は生鮮品については前日または当日の、配達か購入を行っている。手拭いは1日3回交換している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	各ユニットごとの玄関だけでなく、1階エレベーター前にも看板を置き飾り付けを行い、優しい雰囲気が出るようにしている。		
81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	過剰に明るくなりすぎないようにしている。テレビも点けばなしにならないようにして音楽をかけたり静かな時間を作るようにしている。散歩時に手折った花を飾り、すだれやかたつを設置し、季節感を出している。		
82	共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	各所に椅子や座れる段差を設け、好きな場所で休めるようにしている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好み のものを活かして、本人が居心地よく過 せるような工夫をしている	本人が使っていた家具や布団の持込みをお願い している。食器に関しても茶碗など本人の使い慣 れたものを持ってきて貰い使用するようしてい る。		
84	換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のだよみがないよ う換気に努め、温度調節は、外気温と大き な差がないよう配慮し、利用者の状況に応 じてこまめに行っている	定時で換気(10時・15時)を行い、居室に温 度計を置くなどして管理している。季節に応じ、 換気を2回以上行っている。		
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活か して、安全かつできるだけ自立した生活が 送れるように工夫している	各所に手すりを設け、床材はクッション製のある ものを使い、転倒時の衝撃予防になっている。		
86	わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱 や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工 夫している	能力にあわせ居室やトイレに目印や張り紙をして いる。本人のわかる言葉での話しかけや対応を心 がけている。難聴の方には補聴器、ホワイトボ ードを使用している。		
87	建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽し んだり、活動できるように活かしている	昼食をベランダで食べたり、プランターや畑の菜 園、花壇を作り水遣りや収穫をしている。 ベランダは散歩も自由に行っている。		

( 部分は外部評価との共通評価項目です)

. サービスの成果に関する項目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を 印で囲むこと)
項 目		
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	ほぼ全ての利用者の 利用者の2/3くらいの 利用者の1/3くらいの ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	毎日ある 数日に1回程度ある たまにある ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	ほぼ全ての家族と 家族の2/3くらいと 家族の1/3くらいと ほとんどできていない
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	ほぼ毎日のように 数日に1回程度 たまに ほとんどない

項 目		取 り 組 み の 成 果 (該 当 する 箇 所 を 印 で 囲 む こと)
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	大いに増えている 少しずつ増えている あまり増えていない 全くいない
98	職員は、生き活きと働けている	ほぼ全ての職員が 職員の2/3くらいが 職員の1/3くらいが ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての家族等が 家族等の2/3くらいが 家族等の1/3くらいが ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

お寺訪問や幼保園交流、外食、買い物など地域交流に心がけている。